

令和6年11月6日(木)14時～  
大阪市感染症発生動向調査委員会 梅毒部会

## 議事録

### ～開会～

(事務局)

定刻になりましたので、ただいまから「第4回大阪市感染症発生動向調査委員会 梅毒部会」を開催させていただきます。本日はご多忙のところ、当委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます、大阪市保健所感染症対策課担当係長の原井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。当委員会は「審議会等の設置及び運営に関する指針」の第7条に基づきまして、公開とさせていただきます。委員の皆様におかれましては、ご発言される際は、Teams 会議画面上のアイコンの挙手ボタンを押してください。また、事務局で本会議のレコーディングを行いますので、ご参加者様による会議内容の録音、録画はご遠慮いただきますようお願いいたします。開会にあたりまして、大阪市保健所長の中山からご挨拶申し上げます。

(中山所長)

大阪市保健所長の中山でございます。「第4回大阪市感染症発生動向調査委員会 梅毒部会」の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

平素は本市健康行政に対しまして格段のご協力ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。委員および専門委員の皆様におかれましては、御多用のところ梅毒部会にご出席いただきましたことを重ねてお礼申し上げます。前回と同様市内での患者発生数と本市における梅毒対策等をご報告させていただきます。全国の梅毒患者報告数は2024年第39週時点で10,921人と、梅毒患者が過去最高となった前年同時期の11,469人を下回っている状況です。大阪市においても、第39週時点で1,148人と前年同時期の1,248人を下回るペースになっております。

今後増加傾向に転じないために本市でも様々な対策を講じているところです。詳細は後ほどご報告いたしますが患者の割合が増えている青少年を対象として、大学と連携した啓発活動や成人の日の集いでの啓発物品の配付、先天梅毒の対策として妊産婦向け情報冊子でパートナーも含めた血液検査の紹介など広く梅毒梅毒の情報を市民の目に触れるよう対策を講じていきます。

本市では引き続き梅毒対策に取り組んでまいりたいと考えておりますので、委員および専門委員の皆様方におかれましては忌憚ないご意見、ご提案をいただきますようお願い申し上げます。

簡単ですが、私からは以上になります。本日はよろしく申し上げます。

(事務局)

次に本日の資料の確認をお願いします。資料は、

- ・次第
- ・感染症発生動向調査委員会委員・専門委員名簿
- ・感染症発生動向調査委員会規則
- ・梅毒患者数報告
- ・本市における梅毒対策について（令和5年度報告）

以上でございます。不足はございませんでしょうか？それでは大阪市感染症発生動向調査委員会梅毒部会の委員の方々をご紹介します。「大阪市感染症発生動向調査委員会梅毒部会委員専門委員名簿」をご覧ください。部会長につきましては、「大阪市感染症発生動向調査委員会規則」第6条第3項に基づき、8月31日の「感染症発生動向調査委員会」で天羽委員が指名されています。では天羽部会長、一言お願いいたします。

(天羽部会長)

皆さんこんにちは。お忙しい中ありがとうございます。大阪市立総合医療センターの小児感染症内科の天羽です。先ほど中山所長から、昨年度よりも数は減っているというふうなお話でしたけど、多分現場におられる方はそんな激減したイメージもなく減っているのかなあと思いますので、本日多くの専門の皆さん集まっていますので、今後については忌憚ないご意見がたくさんいただけたらと思います。よろしく申し上げます。

(事務局)

ありがとうございます。次に委員の方々をご紹介します。

笠原委員でございます。今回より委員に就任いただいております。

東委員でございます。

古林委員でございます。

早田委員でございます。

続きまして事務局を紹介させていただきます。

保健所長の中山でございます。

保健所感染症対策担当部長の村中でございます。

感染症対策担当医務監の廣川でございます。

感染症対策課長の藤岡でございます。

感染症担当医務主幹の岡田でございます。

保健主幹の齊藤でございます。

保健副主幹の松田でございます。

感染症対策課課長代理の松村でございます。

医員の大野でございます。

事務局の出席者は以上です。

なお、審議の中で関係部局の施策等に関わるご質問やご意見等があった場合につきましては、後日事務局より所管部局へ申し入れます。議事に入るにあたりまして、次の通りご報告いたします。本日出席の委員は5名中「5」名でございます。したがって、本委員会は大阪市感染症発生動向調査委員会規則第7条第2項の委員会開催に必要な半数を超えていることから成立しています。

それではこれより議事に入らせていただきます。ここからの議事運営につきましては、天羽部会長をお願いしたいと存じます。それでは天羽部会長よろしく願いいたします。

(天羽部会長)

はい、それでは私の方で議事に沿って進めさせていただきます。議事の(1)梅毒患者報告数について事務局から説明をお願いします。

### (1) 梅毒患者報告数について

(大野医員)

梅毒発生動向についての報告をいたします。保健所感染症対策課の大野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。お手元の資料、梅毒患者数の報告、発生動向、資料のスライド2枚目からご覧いただけたらと思います。

こちらは2015年以降の大阪市における梅毒の報告数について男女別に推移を表したものになります。棒グラフおよび下の表の通り、2015年の報告数は男性186名、女性の67名、合計253名でした。その後、男女とも増加が続き、2018年に計863名と、いったんピークを迎えたあと2019年から3年間はやや減少傾向になっていました。しかし、2022年には前年の21年の2倍以上である計1419名と大幅に増加し、さらに2023年には計1579名まで増加しております。2023年の男女内訳は男性749名、女性830名で女性が男性を超えております。折れ線グラフで割合を示しており2023年は52.6%と50%を超えました。2015年の女性の割合は26.5%なので、女性が占める割合が4分の1から2分の1となり、実数で見ましても67名から830名と12.4倍に増加しています。女性の割合、報告数ともに増加しておりますから、近年の梅毒報告数の増加には女性患者の増が大きな位置を占めていると考えられます。

続きましてスライド3に移ります。こちらは2019年以降の感染経路別の届出数の推移を示したものになります。なおこちらは発生届の感染経路の項目に性的接触と記載があった症例に限った集計でありまして、感染経路については同性間・両性間・異性間・そして性別不明の四つに分類されております。まず、向かって左側のグラフ、男性に関してですが、斜線

でお示しする異性間の性的接触がもっとも多くを占めており、2023年は372名、割合にして62.5%、また同性間の性的接触についても、異性間の4分の1にあたる96名の報告がありました。一方、右側の女性につきましては、異性間の性的接触による感染が大多数を占めていることがわかります。

スライド4はスライド3と同様の集計でしてこちらは感染経路別にそれぞれ割合にして、100%積み上げグラフで示したものになります。まず左側男性についてです。一番下の男性同性間性的接触による感染者の割合を見ますと、2019年以降増加していたものが2021年をピークとして減少傾向にあります。しかし一番上の性的接触・性別不明の割合が増加し、2023年には2割を超えておりますので、全貌が明らかでない部分もあるかと思われます。一方、右側の女性の症例につきましては、例年、異性間の性的接触による感染が9割前後を占める推移となっております。

続きまして、スライド5につきましては2023年の報告について、男女別および年代別に折れ線グラフで示したものになります。男性につきましては20歳代から50歳代まで幅広く届け出があります。一方、破線で示します女性につきましては、20代に著しいピークがあることがわかります。なお、このような分布は2023年に限らず、近年は同じような傾向がみられます。

続きましてスライド6に移ります。こちらは男性の届出について、年代別の割合の年次推移を示したものです。2019年からの変化の推移を見ましても、いずれの年についても、20歳代から50歳代にまでで全体のおよそ90%を占める形になっています。年代別の内訳については経年に大きな変化はみられず、10歳代の割合が微増しているようには見えます。引き続き今後の動向に留意していく必要があります。

スライド7女性の年代別届出割合の推移です。女性において20歳代が多くを占めるという状況は以前から見られております。あまり大きな経年的変化は見られません。一番下、10歳代を見ていただきますと、2021年以降、割合が微増しており、より若年の女性の患者増が示唆されます。

スライド8は2023年の届出に関し男女別に年代ごとの割合を比較したものです。やはり女性の方が若年に偏った分布を示している様子が見てとれるかと思えます。またご参照いただけたらと思います。

では、スライド9に移りまして病期別の割合の推移をお示しします。こちらは発生届に記載があります病型分類と同様に棒グラフ下から順に無症候、早期顕症I期、II期、晩期そして先天梅毒の計5つに分類し、その割合を示しています。スライド9が男性、次に示しますスライド10が女性を示します。

まずはスライド9、男性につきましては、早期顕症I期が最も多くを占めています。早期顕症I期で診断される割合は年々増加しており、2022年以降は50%以上と過半数を、ついで早期顕症II期が多く無症候は2割程度です。男性では有症状で発見されることが多いようです。

続いて女性についてです。先述の男性とは異なり、例年およそ半数が無症状での報告です。2023年は52.9%が無症候でした。次いで早期顕症Ⅱ期が28.3%、早期顕症Ⅰ期18.6%と報告されており、こちらも例年とほぼ同様の傾向となっています。女性では男性と比較し無症状での発見が多いですが、一方、有症状で発見されるようなケースでは男性よりも進んだ病期で発見されることが多いようです。

スライド11へ移ります。こちらは、男性の症例について、感染経路を男性同性間・異性間で分け、それぞれについて病期の内訳を示したものになります。向かって左側が同性間の病期別、右側が異性間の病期別の推移です。両者を比べますと、同性間では無症候の割合が多く、異性間では早期顕症Ⅰ期の割合が多くなっています。このように、同性間と異性間とは病期の内訳の様相が少し異なっているということが読み取れるかと思えます。

続いてスライド12に移ります。こちらは2023年に届け出があった症例に関し、直近6ヶ月以内の性風俗産業従事歴と利用歴の有無を示しています。向かって左側が従事歴で、男性の従事歴ありは4.5%に対し、女性の従事歴ありは64.2%と高くなっており、女性の半数以上が従事歴ありとの報告でした。向かって右側が利用歴です。男性利用歴ありは29.4%に対し女性の利用歴ありは1%でした。なお、利用歴なしについては男女ともに37%程度でした。ただ、男性も従事歴利用歴ともに不明が3分の1ほど存在しており、女性も特に利用歴については不明も存在しておりますので必ずしも全貌は明らかではありません。

次のスライド13では性風俗産業について男性の利用歴および女性の従事歴に関し、それぞれ2020年以降の推移を見ています。まずは左、男性の利用歴についてですが、利用歴ありは例年3割前後で推移しております。一方女性の従事歴は2020年に46%であったものが2022年以降65%前後と増加しております。

次にスライド14は性風俗産業に関し、年齢階級別で比較したグラフになります。まずは上方、男性の利用歴をご覧くださいますと20歳代から50歳代、各年代にそれぞれ利用歴ありの症例が30から50症例近くみられることがわかります。20歳代では利用歴なしの方も多く、年齢が上がるにつれ、利用歴ありの割合が高くなっていることがわかります。向かって下方のグラフが女性の従事歴について示したものになります。いずれの年代においても従事歴ありが過半数を占めているように思われますが、特に症例数の多い20歳の患者におきましても従事歴ありが占める割合は66.4%と過半数を占めておりました。

スライド15へ移ります。こちらは過去の梅毒治療歴の有無についてみたものです。2023年の報告、計1,579例に関する集計として、男性同性間の性的接触による感染と記載されていたものをMSMの男性として一番左に、それ以外の男性をMSM以外の男性として真ん中に、そして右に女性の症例を示しています。なお、梅毒の治療歴については棒グラフ下から順に1年より前、1年以内、なし、不明で分けておりました、それぞれの実数については右側の表に記しております。まず一番左の棒グラフMSMの男性をご覧くださいますと1年より前に治療歴がある人は35%、1年以内に治療歴があるものが9%ありました。それらを合わせた梅毒治療歴ありの患者と治療歴なしの患者が、おおむね同数となっていることがわか

ります。一方真ん中の棒グラフ、MSM 以外の男性におきまして、治療歴ありは合わせても7%、右側のグラフ女性に関しては治療歴ありが合わせて16%でした。MSM の方では、梅毒の治療歴ありの人が比較的多く存在することがわかります。

スライド 16 は同じく 2023 年の届け出症例について、HIV の感染合併の有無に関する内訳です。先程と同様、棒グラフ一番左が MSM の男性、真ん中がそれ以外の男性、右が女性を表しています。MSM の男性の 38%、実数にして 36 例で HIV 感染症の合併がみられ、他の 2 つの分に比べその割合は突出しています。なお、MSM 以外の男性および女性については、HIV 感染について不明が多くを占めており、はっきりとした傾向を把握するのは困難でした。

スライド 17 へ移らせていただきます。こちらは 2019 年から 2023 年に妊娠例として届け出された報告数を棒グラフで、先天梅毒としての報告数を折れ線グラフで表しています。2023 年は 33 例の妊娠症例の報告がありました。参考に申し上げますとこれは女性症例に占める割合としては 3.9%です。また、2023 年に先天梅毒の報告は 2 例ございました。なお、2024 年は、現時点で先天梅毒は既に 6 例の報告を受けておりまして、これは昨年の 3 倍に当たります。若年女性の梅毒患者増加を受けまして今後の動向が懸念される分野と考えます。なお、妊娠症例および先天梅毒につきましては聞き取り調査結果などについて、後ほど報告させていただきます。

続いてスライド 18 に移ります。こちらは、2019 年からの 5 年間の妊娠ありの症例における報告時の妊娠週数について示しています。妊娠週数については概ね 10 週ずつに分けており、棒グラフ下方がより妊娠初期を表しています。症例数が限られていることもあり、年ごとの変動が大きいですが、2023 年についてご覧いただきますと、10 から 19 週が 4 割近くと最多を占め、ついで 20 から 29 週となっています。また、向かって上方に 2023 年の妊娠例の性風俗産業従事歴および過去の治療歴に関する内訳を載せていますが、およそ半数に性産業の従事歴があるということがわかります。

次のスライド 19 に関しましては 2023 年の届け出数上位の医療機関をお示したものです。男性計 749 例受付がありましたが、うち最も多く報告を受けました北区の泌尿器科診療所 A からは全体の 13.1%にあたる 98 例の報告がありました。続く都島区の診療所 B、中央区の C と合わせて上位三つの医療機関からの報告は、男性患者全体の 30.7%に当たる 230 名でした。一方、女性につきましては、830 例の届け出がございましたが、うち最も多く報告を受けたのは、中央区の婦人科内科診療所 E です。全体の 27.8%にあたる 231 名でした。続く、中央区の診療所 I、北区の診療所 J と続きまして、上位三つの医療機関からの報告は計 508 例に上り、女性患者の 61.2%、半数以上を占めます。

スライド 20 へ移ります。少し話は変わりまして都道府県の視点から発生動向について御報告申し上げます。こちらのスライドは、2023 年第 2 四半期から 2024 年の第 2 四半期までに、届け出数が多かった上位 10 の都道府県についての推移を表しています。まず一見しておわりの通り東京都からの報告が最も多く、次いで大阪府です。東京都、大阪府では

それぞれ右から2番目に位置しております2024年第1四半期において減少が見られておりましたが、同じく2024年第2四半期には再度増加がみられています。神奈川県や愛知県においても似たような傾向がみられています。一方、北海道や兵庫県、福岡県などでは2024年第2四半期にかけても引き続き減少傾向が見られています。

スライド21へ移ります。2024年第2四半期の届け出数を人口100万人対といたしまして、上位5つの都道府県に関して時期ごとの推移を折れ線グラフで表したのになります。人口100万人対で見ましても、東京都が最も多く次いで大阪府となっていることがわかります。東京、大阪に関しては緩やかに減少していたように見えたのですが、直近の四半期ではいずれも増加に転じています。なお、福岡県、点線の菱形ですけれど、こちらをご覧くださいますと2023年の第3四半期には大きく上昇していましたがその後は減少しています。その他、岡山県や宮崎県につきましては、届け出数としては上位には入っていませんでしたが、人口あたりでは上位5位以内に入ったということになります。いずれも変動ありますが、緩やかな増加傾向にあるように見えます。

スライド22に、2023年第2四半期から2024年の第2四半期までの大阪府内のブロック別の届け出数をお示しします。まず、大阪府の届け出数の多くを本市が占めていることがわかるかと思えます。四半期ごとの推移を見ますと先程の大阪府の増減と同様、大阪市でも2024年第1四半期にかけ減少していた報告数が、第2四半期にかけ再度増加に転じています。大阪市と同様の推移をいくつかのブロックで認めますが、堺市では反対に山を描くような推移となっております。

最後になりますが参考として一つスライドをお示しします。こちら、お配りできておりませんので申し訳ありませんが、画面をご参照ください。昨年の本部会で献血での血液検査結果が話題になっていたかと思えます。日本赤十字社のホームページにあります、「数値で見る血液事業」に検査不合格数が統計資料として公表されています。過去10年間における献血された血液における梅毒TP抗体検査による検査不合格比率を大阪府と全国を抽出しております。2019年から21年にかけて、不合格比率は0.1%上昇していましたが、その後減少がみられ、梅毒の届け出数の増加と一致した急増は見られていませんでした。私からの報告は以上です。

(天羽委員)

(2)「本市における梅毒対策について(令和5年度報告)」について、事務局から説明をお願いします。

## (2)「本市における梅毒対策について(令和5年度報告)」

(事務局)

それでは、令和5年分の取り組みについて、松田のほうから報告いたします。スライドを



次に、梅毒予防のティッシュを作っており、各区成人の日記念のつどいにて、配付しております。ティッシュのところにQRコードをつけて、本市の特設ページに飛べるように工夫しております。

次です。他の機関との連携の啓発ということで、令和6年度ですが、大阪府専修学校各種学校連合会・大学コンソーシアム大阪を通じて各教育機関に検査動画の配信をお願いしております。

次になります。webを通じた発信ということで大阪市のホームページは令和4年3月にHIV・性感染症に関する情報の集約を行う専用ページ「HIV/エイズ・性感染症ガイド」を作成し、情報が確実に見れるように工夫しております。次にXやインスタグラムのアカウントを作成し、こちらでも情報発信するようにしております。

次に梅毒の啓発ポスターを作成しており、地下鉄の掲示板22駅に掲示をさせていただきました。あとの写真のほうはFM802のイベントであったり、エイズ啓発のイベントで利用させていただいたり、あと、セレッソ大阪の試合会場にも行かせていただきまして、啓発物品の配付をさせていただいたりしました。次に写真がありますけれど、このような状況でさせていただきます。

次にリーフレットによる啓発ということでリーフレットの作成をしております。毎年3月に更新をしております各区保健福祉センターおよび医療機関へ配架依頼をしております。また、大阪府及び大阪府内保健所設置市と連携をしております、「エイズ予防週間実行委員会」というのがありますけれど、他の性感染症と合わせて啓発をしております。左側にかわいい絵があります。「梅毒編」という動画も作らせていただいて、啓発を続けております。他の機関との連携については、お示しさせていただいておりますけれども、女性向けのシンポジウムであったり、健康のイベントなどで啓発カードを配付させていただいて、検査であったり知識であったりのところのホームページ等に飛んで確認いただけるように工夫をさせていただきます。

次に、妊産婦への啓発ですけれども、母子手帳発行時に配付している冊子に、梅毒等の性感染症について掲載をさせていただいております。パートナーも血液検査を受けるよう、ここで注意喚起しております。またホームページにおいては、妊娠を希望する方や妊娠中に気をつけたい感染症についてとして、梅毒等の性感染症についても掲載しております。また、大阪市では母子手帳交付時、全数、保健師が状況を把握をするようにしておりますので、その保健師に対して性感染症についての知識を持っていただくということで、研修をしております。

次に、性風俗産業従事者に向けた啓発ですけれども、こちらは団体のSWASHと連携いたしまして梅毒に関する記事を共同で作成させていただきましてSWASHのサイトに掲載させていただいたりしております。できるだけ情報が届きやすいように、工夫をさせていただいたり、啓発物品につきましてもSWASHに配付を依頼しております。

次にMSMに向けた啓発ですけれども、こちらはMASH大阪と共同して啓発を進めてお

ります。HIV 梅毒検査の実施や、関連商業施設への啓発を MASH 大阪と共同してさせていただいています。

それでは次に検査・相談体制について、御説明いたします。大阪市における HIV 性感染症検査体制ですけれどもスライドの方にもお示しさせていただいておりますけれども、毎日どこかで検査を受けられるということを目指して設定をしております。

本市における梅毒検査受検者数・陽性者数の推移ですけれども、少し検査内容が変わっておりますので、真ん中に線を引かせてはいただいておりますけれども、いったんコロナ禍で受検数が減少しておりましたが、梅毒急増もありまして、検査数がだんだんと伸びているような状況です。

次に、今年度取り組みになりますが、イベント検査についてご説明します。令和2年から中止になっていたんですけれども、今年度から取り組みをしていこうと、12月に予定していきまして、その時に HIV と梅毒検査を即日で行っていく予定にしています。近年は外国人の方も増えていますので、外国人の方も受検しやすいように、今回通訳付きということで検査を実施する予定です。

次に、大阪市における相談体制ですけれども、常設健康相談といいますのが24区全部の保健福祉センターで行っておりまして、そこで保健師が相談をしております。

検査実施区というのが、北区、中央区、淀川区になりますけれども、こちらでは検査結果の返却時に保健師から指導をしております。

また2番目に書いておりますけれども、外国語の専門電話相談というものを、府と共同でNPO法人のCHARMに委託しておこなっております。この時には、HIV エイズに関する相談の中で、性感染症に関する相談も受けておりまして、それに対して外国語で対応していただいている状況になっております。

最後に分析・評価になりますがこれにつきましては、大阪市感染症発生動向調査委員会の梅毒部会において、感染症の専門医や学識経験者の方から御意見をいただいております。以上です。

(天羽部会長)

ありがとうございました。何かご意見とかご質問とかありますでしょうか？古林先生お願いします。

(古林委員)

外国人に対する対策ですけど、先ほどの今年の6例の先天性梅毒について、外国人のお母さんというのは、見られるようになってるのでしょうか？

(事務局)

聞き取ったうえでは、ここ数年も全例について聞き取り担当者が国籍について尋ねられて

いないケースもあるんですけども、聞き取れた症例が半数以上ありまして、それに関しては全て日本人ということになっています。

(天羽委員)

ありがとうございます。東先生何かありますか。

(東委員)

すでに SWASH との連携をされているということなので、改めてコメントする必要もないかもしれませんが、女性における無症候での発見が多いというのは、店舗で定期的な検査が義務付けられているからだろうと想像します。そうでない業態、とくに業界の底辺でセックスワークに従事している人たちがいかに検査や治療につながっていないかというデータを集めることができれば、より効果的な予防・介入アプローチに向けた取り組みにつながるのではないかと思います。なので、質問に「性風俗の経験の有無」だけでなく「業態」についても聞いていただければ、と思いました。

(天羽部会長)

はい、ありがとうございます、どうでしょうか？

(事務局)

質問というのは、主治医への聞き取りでということでしょうか？なかなか医療機関の先生から、業態とかがどこまで聞き取られているかというのはわからないですけども、今頂きましたご意見をもとに、例えばセックスワーカーの方でしたら、定期検診はされていたのかとか、先生にも聞き取っていただきやすいかなと思います。ありがとうございます、参考にさせていただきます。

(天羽部会長)

そうですね今回が初回の検査なのかどうかとか、そういうところが聞いてもらえると、ちょっと繋がるのかなと思いました。

(事務局)

ありがとうございました。

(天羽部会長)

他はいかがでしょうか？なんかたくさん啓発活動頑張っておられると思うんですけども、こういうのをしたら、もうちょっと啓発が広がるんじゃないか何か先生方ご意見いただけたらと思うんですけども、いかがでしょうか？はい。笠原先生お願いします。

(笠原委員)

大阪府医師会の笠原です。大阪市が啓発活動を非常に頑張っておられる状況、本日初めて委員会に参加して感心いたしました。広域的な普及啓発(⑤)に関し、ビデオを作られているということですが、4分は少し長いと思います。全体で1分程度のものを30秒から40秒程度のものに分けて作成し、高頻度で放映する方が印象に残るのではないのでしょうか。

また、様々な普及啓発活動の結果などを確認されているのでしょうか。資料の作成・送付だけでは上手くいかないこともあると思いますので、フィードバックを含め行政からのチェックをお願いできればと思います。

(事務局)

一応30秒という動画も作っておりまして、それも流すようにはしております。あと、おっしゃっていただきましたように、配るだけではなく、ちゃんと見ていただけたのがどのくらいかというのを、確認していくようにいたします。ありがとうございます。

(笠原委員)

せっかく頑張って作成された資料ですので、ぜひお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。

(天羽部会長)

その他いかがでしょうか?いいですか私から。大学祭とかいいなと思ったのが一つなんですけども、多分行政の方が言うよりも、病院の院内の感染症対策もそうなんですけど、各オピニオンリーダーみたいな方を育成する、学生さんたちで横で広がる方が、SNSとかでパッと「めっちゃ怖いで」とか言って広がっていくので、学生さんたちってそのオピニオンリーダーになるような方を育てていくっていう、何かそういうのができたらいいのかなと感じました。

(事務局)

ありがとうございます。またそのような方に、アタックできるかわかりませんが見つけられるように。

(天羽部会長)

大学祭の委員長みたいな方とか、そういうので誰かが推薦してもらって、みんなで集まって勉強会とかしてその人たちが大学に帰ってまた広げるとかの方がなんかたくさん広がる

ような気がすると思ったのと、あともう 1 個だけその中学校 3 年生の方に啓発活動を始めておっしゃってて、なんか結構私達最近やっぱり 10 代前半っていうか本当は 12 歳妊婦さんとか結構年齢が低年齢化してるなって、病院にいたら感じるのもうちょっと下げたっていいのかなというのも一つ感じました。

(事務局)

ありがとうございます、参考にさせていただきます。

(天羽部会長)

東先生いかがですか。

(東委員)

instagram や TikTok など、SNS の活用がもっと必要で、コンテンツを流してくれる「若者」をリクルートできたらいいと思いました。(現代版のピア・エデュケーターの養成)

(天羽部会長)

はい、私もそのように感じました。

(事務局)

ありがとうございます。

(天羽部会長)

その他よろしいでしょうか？たくさんご意見ありがとうございました。それでは議事を進めます。次の議事 3 はその他ということで事務局からお願いします。

(事務局)

こちら事務局からは、その他に対するものは特に今回はございません。

(天羽部会長)

ありがとうございます。それでは最後何か全体を通じて先生方何かご意見とか感想とか。ありましたらぜひお願いします。特にないですか。

はいそれではありがとうございました。これで議事は終了いたします。ご協力ありがとうございました。

(事務局)

天羽部会長並びに委員の皆様方には円滑に議事を進行いただきありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましても、真摯なご討議をありがとうございました。

これをもちまして、本日の委員会を閉会とさせていただきます。今後とも大阪市の感染症発生動向調査事業へのご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

長時間お疲れ様でした。本日はありがとうございました。